撮影 朝 比 奈

### 水戶殉難者恩光碑保存会 知恩 報

会

第十四号

### 平成 25年9月14 日

した 水戸藩国事殉難者慰霊法要を行い

追 草の辞



けんや 悲しみ 皇恩洪大 碑背に録す也 いずくんぞ遺霊また以て瞑すべ 藩士中数百人を下らず 明治 戊 辰 慷慨難に赴く者 宗家の後に録 茲に其の姓名を挙げ 徳川宗家の 衰廃を 水戸

篆額 朝比奈知泉室田義文

みであります。 が散華された事は、誠に痛恨の極 士道の信念のもとに、国事に奔走 末を憂い、一途に尊皇敬幕・報恩 野にさらし、多くの有為の人材 幕末維新 不慮の死を遂げ、 の激動 期に、国の行く 屍を各地の

るも、 じております。 義文翁のお言葉の通り、 は少しも異なる所は無いと、室田 党派を別にし、其の 君に対する忠誠心に於いて 主義は異な 私達も信

平

成25年9月14日

# 0

関係者一同、 ご来賓の皆様ご臨席のもと、子孫 事殉難者」慰霊法要挙行に当たり、 本日、ここに、水戸藩 士に、心から哀悼の誠を捧げます。 碑前に集い、殉難諸 「諸生派 玉

散華した人々に光をあて顕彰 の誠を捧げるものであります。 を致し、この先祖代々の地・水で、各地に散華した人々に 思 参る所存であります。 ることなく、末長く後世に伝えて 水戸藩の歴史の真実を風化させ に於いて、皆様と共に、 私共は、この慰霊の行事を通 本日、ここに往事を偲 幕末騒乱に際し、不幸にして 鎮魂慰 L 霊 戸い

(水戸藩家老

君のため (辞世の歌) 忠が不忠になるぞ 捨つる命 惜しまねど は 悲しき

市 川三

左 衛

門

異なると雖も、心安らかにご冥福 幕末維新の大転換期に、事、 と全く同じであると思います。 心情は、この歌に込められた一 をお祈り申し上げます。 水 戸藩諸 生派国事殉難諸士の 志と 心

水戸殉難者恩光碑保存· 川上有文 会

3

## 水戸藩国事 殉難者慰

霊

#### 次

日 所時 平成 洞 宗 25 年 祇 9 八幡町 遠 月 寺 14 日 11-69

務局 光 無水戸 「深谷」 の市 碑 前

司

会

正 法 第 1 部 2 追 1 読 悼 経 の辞 典 式 奉読

念写

副会長長長 

4来賓焼香 水戸市長 参議院議員 原 岡高 田橋 広 靖 様 様

田 口 文明

様

議会議 軌 員 高 橋丈夫様

水

戸

市

跡 著 者 市 村眞 様

市

111

0

市教育委員会教育次長 本多清峰様 里誠志郎

水

戸

市

水 戸

市

慰 幕 末維 霊 末 維 碑 建 新 新 是立尽力者 事務局長 !! 水 水 務局長 川上 清端水戸有志を偲ぶ会 万有志 阿久津俊 心を偲ぶ会 室伏 男様 清様 勇 様

午 5会員 後 12 辞 焼 30 参列者自由 閉式 焼 香参 拝

本 記 堂前にて法要参列記念写真撮影

設第 開 客殿大広間 2 1 来賓挨拶 お礼挨拶 会 部午 (食事会) 司へ 会 後 に置 1時 川 事務局 いて 深 谷

高橋丈夫様 本多清峰様 不多清峰様 橋丈夫様日口文明様

4 3 会食 来賓紹介

閉 全 会 懇談交流 午後2時 3 分

手前は芸要式 光 開 無辺 0 碑 標 石 柱

読 祇 園 寺 小 原 住





典 参 列 の皆 様 典

始

#### 水戸殉難者恩光碑保存会 会報知恩 14 号 平成 25 年 11 月 15 日

中 参水平 武阿川 室 本市高田岡高 武関 深岡大前川 小小 見森沢上会原原寺藤口 田久上 伏 里 多村橋口田橋来列戸成 賓の藩 25 益円信瑞有員副宜院秀慶 和津 誠 清真丈文 皆国年 馬俊清 勇 志 峰一夫明広靖 明久 礼男穂文 住 弘 様 事 9 様様様様様 様 男 様 郎 様 様 職 殉月 様 様 水水水水水 難者 14 慰 偲 幕 教 水 教 水 市 水 水 参 々 祇 茨 水 K 城 事戸霊 ぶ末育戸戸川戸戸議戸新文務市碑事会維次市長市勢市市院市 市市市市市 康 日 慰 寺 霊 教の議議議長 住 法 育軌会会員 要 委跡議議元 員著員長市

を



順 不 朝岡塩川今小岡野宇川遠大市平田富朝 比見澤上橋山見田留和西森川戸口田比 奈京美京知文瑞敏野仁輝信達吉 満 奈 奈子江子江晴光一夫樹也衛 彌泰 子 紀 将 水水水水日小常水水水柏水海水鉾水水 戸戸戸戸立山陸戸戸戸市戸老戸田戸戸 市市市市市市太市市市 市名市市市市 市 田 市

会者

長



参水平 列戸成 記 藩 25 念国年 事 9 殉 月 難 14 者 日 慰 霊 法 要

#### 戸 0 周 年 諸 生 迎 派 え 殉 難 者 慰 霊 復 活

行 水 人 属 うことに 戸 × L 末会 7 維 設 玉 玉 新立 事 事 0 0 あ 殉 15 時 E 供 りま 難 奔 的 卷 者 走 する。 水 慰 L 戸 て、 諸 そ [要(祭)] 殉 生 れ 難 派 は、 L 12

ち上げ、 と深 まし 初代会员 難 5 経 なけ 者を供 た 過 VI L 水 成 哀悼 れば、 長 ま を 戸 1 藩諸 した。 供 養 が、「今、 復 6 養 の気持ち する人が 活 他に、 行 L 生 当初、 事を て 1 派 以 我 殉 前 より で、 実 いるだろう 誰 K 0 難 故 が諸 行 が 年 者 大森 本会を立 L 立 0 慰 懸 て 生 5 年 霊 案 信 派 あ 月 法 で 参 英 9 か 殉 から 要 あ が

を 自 るだろう を 恩 作 室 光 5 田 無 な 翁 辺 カン け 0 れば、がこの 誰諸 0 時 が生 ر 派 0) 0)

る 人 敗 K を 0 超 努 えて 8 で 共に あ る 供 養 す ~ き で

難

者

を

供

養

す

る

0

は

後

世

翁 義 0 文 意 翁 を戴 は 言 1 わ 供 れ ま 行 L 事た。 を 行 私 共

> 持 な、 T 長 生て 5 きた VI 派 主 旧 亚 は は 態 成 ٤ に VI 依 0 伺 臣 お 然たる な 世 2 いと思い に て 派 0 お 関 水 ま 係 て、 すけ 識 ・ます。 戸 は 的 史 そ れ 差 あ しのよう ŋ ども、 一別され 観 伝 もと、 わ 0 2

じく い市慰っ じること 民とし 天狗 5 霊 勿 願うも 供 明 養 諸 治 て、 生 t することは、 維 旧 0 新 自 来 両 是 であ 0 由 0) 党 非そうあっ 魁 7 派 ります。 となった あ 水 0 ります 戸史 人々を 地 元 観 ル・水戸 水戸 が、 て 共 欲 を に、 藩 同信

県

寺い

どうし ども、 9 言藩の to ま 八 える 諸 場 忠 重 せ 生 面 誠 山 一の桜 0 派 が T を も、納 本 で 12 放 八 F. は 2 映 重 な VI 3 ないかと思っても同様の さん ラマ 得たがの れ得 まし は、「 では ゆ 15 逆 た カン 心われてない。水戸 あるけ 会津 な 賊 VI ٤ は は、 ٢ 最れ

が

ら、

願 会とし

ぞうも

0 7

で

あ

9 史

うます。

本

は、

跡

指

定

を

心

カン

のまな作 L ょ せ 0 5 歴 7 れ 史 T 敗 き 者 た 其 7 0 0 0 くる 立 で 時 場 あ 0 り、 0 カン あ 勝 で らこそ本 る 者 かも は 真 15 も知れ ない よ 2 0 当 T

は 水 戸 史 観 に お

> を から 真 さ 広 実 7 って が を 7 ることを 知 VI 0 間 T n 顧 多く ま 頂 生 7 き、 L 願 派 って、 0 人 難 to 0 A 者 無 12 供 理 養行 解 歴 史の 光 0 たを 輪 視 事

まは、地は、ままままます。ののたが、 水はい議 会に 泊、 又、 湯 あ 戸 て 史 た。 料 19 市 両 0 0 0 派 八 津 ま 当 派 質 お近 心 to 皆 殉 日 上 会 0 とに、 様各の地 市村、 中、 L 局 平 疑 い年 カコ 難 津 生 等に て、 応 5 者 場 白 派 (平成 市 などを 温に、 答 感 を 水戸 虎 新 関 今日に 慰霊 教 対 が 謝 隊 潟 連 水 カコ 教委)の議会答弁対応する」との、 申し上 慰霊 あ 戸 VI 市 記 県 0 21 内、 藩両 手あつい、 り、「これ 供 訪 念館 柏 年)、 養 問 崎 党派 一げます。 L 前 市 8 各 -葉県匝 水戸 T 灰 7 地 八八、 参り からつ 栃 少 に 市 な 木

25 は 思 光 水 大なる 戸 文 無 亚 化 市 辺 成 12 光 遺 碑 23 は 無 局 倒 産 年 寺 辺 壊 市 に 泊 0 礼 配 明 寸 教 碑 は 慮ご 板 前 育 大 佐 0 藤 震 支援 修 石 災 义 げ 設 柱 復 (会)よ に ます 書 を 置 0 賜 顕 建 24 ょ な 立年るる恩 彰 碑

> ご支 T おり 者 慰 関 土 戸 ま 史 委 霊 係 ご協 家の 供 議 養 力によ 皆様、 行 皆 様、 事 は、 そし 多くの ご協 今日 て、 諸 力 F 皆 を頂 生派 に 市 会員 様 至 当 つ殉 0

と て、 水平私碑諸難 た 者全 のこと。 水 戸 成 共 で 生 7 戸 指 市 23 は あ 派 恩 戸 定登 慎 市 指 ŋ 慰 員 光 市 年 この 文化 重 定 霊 無 に、 0 0 C に 録 史 歴 碑 辺 祇 恩 を要望 あ 調 財 跡 史 で 水 0 京 0 ŋ 查 保 戸 遺 あ 寺 光無 より 市教育 護審 ま 検討を進 歷 ŋ 産 境 ず。 一致し 史 内 ( 辺 所 遺 議委員会 諸 あ 12 0 」であ ま 委員 生派 ります。 建 産 L 8 生 立 した。 とし る 会に 会に を、 り、 さ 記 派 念 殉れ

理 県 生 解 民 派 願 及 5 0 12 to 輪 0 霊 0 が 行 であ て、 事を 広 が 戸 特に、 ŋ ることを、 通 市 )ます。 民 L て、 0 皆 地 様 元 水 戸 茨 藩

城

戸 殉 者 恩 光 碑 保存 上有 文

寺泊 法福寺に

◆佐藤図書の墓(文化遺産説明板)が設置される

享年4 戊 明治元年 5 そ し、ここに葬られた。 の後、戊辰戦争では官軍に 辰の役の合戦中に寺泊 0 同志 500 余名と共に水戸か 脱 出を余議なくされた。 4 (1868年) 5月、 で 対 病 北 抗 越 研.

平成2年7月

つ孫

法号

は

大乗院殿實相日

信

居士。

平成 2年 7月 水户市教育委員会

② 設置者 管沼家墓域内 新潟県長岡市寺泊二の関 2720 設置場所

◆佐藤図書守信近・顕彰碑の設置

おも

に至る経緯

当時、 まりの 菅沼家によって、 中れの んでした。 の大変な状況下にも拘わらず、 ました。 菅 明 沼家の門 治 同家の墓域に葬られました。 元 石碑建てることはできませ 年、 当 時 前 佐 の、 で 藤 ひそかに、寺泊 力尽きて 义 戊辰 書 守 戦争合戦 は 死去さ 泊

佐藤 辰 家・稲川 戦死者と共に、 れ 市 戦 昭 ました。 役 跡 図 和 所も訪問、 調 52 書守の墓を発見され、 明雄先生が 査の途上、 年 頃、 柏崎市 確認 長 畄 寺泊法福 新 0 市 湯県 上、 灰爪 0 郷 公表さ 内 0 の戊 水戸 寺に 土 丘 史 0

たと聞いており ·佐藤重雄氏 昭 和 50 年 代、 が 佐 ります。 藤 (揚法要) 家 0 は、 を行 曾

お墓を参拝後、10月24日、法福 うに、 新石 で お が り、 **4**個 本会としては、 は 潟 県 のみ) 何ら の皆様に か、 かの 法福 市当 のままでよ 等 現状 局 方策を考えるべき 恥ずかしくな 寺、 H 昨年・ 0 (市教委) 佐藤図 意見が持ち上 寺や (墓に 平 VI 菅 小さな 成 書 0 沼 にも か、 守 24 様に いよ 年 0

> を見さして、見系者等策の各別がして参りましたところ、 原いして参りましたところ、 原いして参りましたところ、

> > 顕

彰碑

(文化

遺産説明

板)

近景

市顕 T なるご了承を頂き、「佐藤図書守 れました。 顕彰碑が作成され、 (平成25年7月) 彰碑」 当局 果として、 (市教委)のご尽力により、 設置の 運びとなり、 関係者皆様 完成し 2 1 3 設 0 格 水 年 の別

ます。守信近も感謝しているものと思い泉下の、水戸藩家老・佐藤図書

篤く御礼申し上げます。 ご協力頂いた皆様に、重ねて、

小さな石のみ(目じるし)として佐藤図書守の墓



佐藤図書守墓 遠景





会計報告

支出の部

御布施

梅酒

弁当代 供物代

資料代

残余金

支出合計

金額

備考

70,000 法要費用

60,000 々

49,450 々

5.488 々

8,358 々 8,704 出納繰入

202,000

会水 戸 藩 収 国 支報 事 殉 難者慰霊 法 要

月

1

4

H

力力 関連 賛寄付会計 L て 0)

佐 藤 义 書 守 • 頭 収 彰 支 强 報 設 置

御礼申、

藤

义

書

顕

彰

碑

設置

賛

寄 篤 付

を

の皆様

12 協

は、

今年 集後

to

少

なくな

りま

L

た

が

ご芳名

 $\stackrel{\frown}{40}$ 水戸 供

名 藩

様

に

は

気でお過ごしの

安什合业和生

	<b>在</b> 膝凸窗 7	现[刊[刊]	可以不可形口		
収入の部	金額	備考	支出の部	金額	備考
寄付金		会員40人	新潟出張諸掛	100,000	現地御礼
			御礼·本代	36,200	寄付者御礼
			送料	3,200	々
			資料費	800	
			残余金	151,800	特会保管
収入合計	292,000		支出合計	292,000	
O 1 A 1 1		7714 07 7/	でもこれ 四 フ ひのよし	ははの世の	

①本会より法福寺、寺沼様へ顕彰碑設置了承御礼挨拶の費用

②本代は 寄付協力頂いた方への御礼の費用

25,9,14

金額

140,000

202,000

①残余金に本会計(出納)に繰り入れする

収入の部

参加会費

収入合計

補助金

雜収入

慰霊法要

50,000 恩光碑基金特会より

12,000 残余梅酒売却

③残余金に恩光碑基金特別会計に保管、慰霊行事費用に活用する

宇留 吉 田 遠 松 谷 寺 弓 中 市 葉尚 西 祭 田 田 口 山 門 削 JII JII 森 久 田 比 部 政 寬 輝 野 幸 勝 信 津 悦 登 徳 興 渓 奈 志 光 弘 夫 雄 衛 子 文 明 朗 志 泰 俊 礼晴 泰 男 茂 将 畠 結 渡辺信 前 信 立 堀口 平 玉 島 朝 川佐 大 佐 富 山城 戸 芸 弘 |井正 原 澤 森 根 木 上 藤 比 田 H 義 貞 瑞誠 敏 木奶 有 文信 奈 万 満 夫 穂 誠 通 勝 壽 行 泰 里 雄 男 衛 文 彌 也美 紀 子 子

不

予

活用させ

て頂

きます。 難

諸 生派

国事殉

志

士

0

慰

霊

養

付

金(292,000 円) し上げます。 した会員

は、

水 别 戸 殉 難 者 恩 光 碑 保

会 報 知 恩 第 14

成 印編編編編 編 集 集 刷集 集 集 25 委員 委 顧 委 委 年 員 員問 作 員 11 成 月 15 深朝 岡川 前 日 谷比 見上 澤 発 瑞 益 奈 円有 行 美 泰 礼文 穂 紀

藩 事 殉 難 志 士 を慰霊する

その 定。 来 戸 重 来 戸 水 0 慰 年 他 名 市 戸年 細 度、 桜 霊 る予 藩 水 度 は 見 内 内 学、 戸 • 旅 鯉 • 決 0 原 第2弾 藩 農村 定。 余 行 公 渕 定 平 日 を計 諸 韻 民 勢 次 成 生鎮 第 動館 0 0 詳 帰 26 残る とし 画 向 で 動 别 細 9 年 K 向 研 途 魂 L は 存 度 修会を て、 連 碑 春 T 後 0 絡 参 4 VI に 日 VI は ま 月 L 連 7 0 頃 す ま 理 行 絡 VI す。 に 解 T VI

水

お元り